

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月20日

【評価実施概要】

事業所番号	3671900318
法人名	有限会社 ケアサポート岡井
事業所名	グループホーム ころこ
所在地	徳島県三好市東みよし町足代1131番地 (電話) 0883-79-5577
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 12月 12日

【情報提供票より】(平成19年11月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年 11月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	17 人
利用定員数計	18 人
	常勤12人, 非常勤 5人, 常勤換算Aユニット7.0人, Bユニット6.9人

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月28日現在)

利用者人数	15 名	男性	2 名	女性	13 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低 72 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・三加茂 田中病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

集落から少しはなれた田畑に囲まれた中に位置しており、利用者が自由に庭先や畑に出ることができている。四方の田畑はグループホームの耕作地であり四季を通じて作物の植付けから収穫までを見たり、時には参加して収穫したものを毎日の食事に使用している。利用者のかかりつけ医や歯科医師との連携もとれており利用者・家族が安心できる生活の支援がされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題である緊急時の対応の定期的研修について、全職員で改善計画を立て研修を実施し、マニュアルの作成が行われている。また、全職員が緊急時の対応ができる体制が作られていた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員がサービス評価の目的と意義を理解し、全項目について一人ひとりが意見を書いたり話し合うなどし、職員の資質の向上として捉え、サービスの質の向上につなげている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は現在は3ヶ月に一回開催されている。会議には利用者家族、地域包括支援センター職員、地域老人会代表の方が参加し、グループホームの見学、事業説明、利用者の状況報告、外部評価の報告、自己評価の取り組みについて説明がなされていた。また認知症の対応についての意見交換などを行うことで、地域への理解の広がりにも活かされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の生活の状況を毎月一行日誌の記録を取り、表情や生活の様子の写真を添付して、ほぼ毎月のホームだよりと合わせて全家族に郵送している。また、家族の訪問時にはゆっくりと話しをする等している。意見箱や苦情相談窓口も明記し、意見を頂く配慮もできている。家族の意見により重度化した認知症の対応については、医師との連携、職員の自覚などサービスの強化に反映されている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の知り合いがよく来所してお茶を飲んだり、庭先や畑周辺の散歩などで声を交わすなど日常的な繋がりがあ。管理者が地域の老人会に加入しており、利用者やホームへの理解と協力を得るなど連携ができている。小学校の運動会や地域の祭りに出かけたり、ホームに神輿や盆踊りなども来ており交流がなされている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、検討を重ね、具体的でわかりやすく、地域との関係性の中で安心して暮らすことを掲げた理念が作られている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングなどで繰り返し確認しあい、日々のケアに活かし取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者が地域の老人会に加入しており、事業所への理解が深められている。地域の行事や祭り、小学校の運動会など交流もなされている。利用者のお友達もよくホームを訪問して、一緒にお茶を飲みおしゃべりを楽しんでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員はサービス評価の意義を理解し、自己評価に取り組むことで職員一人ひとりの意識の向上が見られ、サービスの質の向上につながっている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は3ヶ月に1回開催されている。地域住民の代表、地域包括支援センター職員、家族代表などの参加で実施され、ホームの見学、取り組みの説明、利用者の状況、自己評価の取り組み、外部評価の報告などされている。重度の認知症の対応についての話し合いもされ、サービスの質の向上につながっている。しかし、会議の内容が全職員に回覧されていない。	○	2ヶ月に一回開催されたい。また、会議の内容を全職員が共有できるよう、会議録の回覧、確認サインの仕組みを作られたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険みよし広域連合主催のグループホーム職員研修会が開催されており、意見要望と共に、参加者との情報交換や交流を行いサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりを毎日一行日誌に書き、生活状況の写真と共にホームだよりも合わせて毎月家族に郵送している。また利用者の状況や変化に合わせ報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情相談窓口がわかりやすく明示されている。意見などはないが、家族が訪問されたときはゆっくりと関わり意見を聞くようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による利用者への影響はよく理解しており、できるだけ必要最小限の異動を心がけている。代わる場合は利用者に合わせた説明と関わり方に工夫しながら行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し、管理者、職員の研修の機会を設けている。内部研修、外部研修共に参加後は、報告書を作成し報告している。しかし、全職員に報告内容が確実に伝わる仕組みが不十分である。	○	研修内容が全職員に周知できる仕組みの工夫が望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会、老人福祉施設協議会に加入し、研修会は複数で参加して情報を得たり、他のグループホームの見学や意見交換をしている。また、みよし広域管内のケアマネージャーの交流の場に参加し、意見交換を行うなどサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状況にあわせ、自宅を訪問したり、本人と家族と一緒に見学をしてもらうなどし、家族や関係者と相談をしながら馴染める工夫がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の知識や経験から学んだり、お互いに協働しながら生活ができるよう場面作りをして、共に支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用するにいたるまでの生活状況を把握するため、地域の関係者との連携を深め、情報を得る努力をしている。いつもそばで寄り添うことにより、その人の思いを感じ取るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	これまでの本人を取り巻く家族や外部の関係者から、本人のための情報を聞き関係職員で話し合い、家族にも相談しながら介護計画を作成している。モニタリングやカンファレンスも行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しの実施に合わせて、利用者の状況の変化や家族や本人の要望など、実情に合わせて随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用型生活介護事業を実施していて、今日までに地域の3人の方の利用があり、地域の重要な介護サービスの場となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の、かかりつけ医との連携や協力が得られ、必要とき訪問診療も受けることができている。事業所の協力医、利用者のかかりつけ医など適切な医療が受けやすく、利用者や家族にとって安心な支援となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早い段階から重度化や終末期について家族と話し合いをし、医療機関にも協力を頂き、家族や医師などと繰り返し話し合い、できる限りの支援に取り組んでいく方針を共有している。事業所としては家族の意向に添う支援を行うこととしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃の利用者への言葉かけや対応には、常に尊厳の気持ちを持ち、プライバシーを損ねないよう支援することを朝のミーティングなどで全職員に周知徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性や特徴を大切にしながらさりげなく寄り添い、きっかけを作ったり、関心ごとを見つけ一日一日をその人らしく過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者を交えて毎日の献立を考えている。ホームで収穫した野菜を使い下ごしらえや調理の手伝いをして、食事は職員も一緒に食べている。しばらくゆっくりとおしゃべりしてからみんなで後片付けをしている。和やかに楽しく、食事の一連の行為を大切にされた支援がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、利用者の希望や状況に合わせて、いつでも入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	短歌作り、絵を描く、カラオケ、畑の手伝い、お掃除、野菜の仕分け、干し柿の皮むきなど、一人ひとりに応じた役割や楽しみ、気晴らしの支援ができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出かけたり、庭や畑にも日常的に出ている。また隣の家に行く気持ちで、他方のユニットへ出かけ、お客さんになりユニット間の交流を楽しんでいる人もいます。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は鍵をかけることの弊害をよく理解していて、不安定で落ち着かない状況のときは、本人のできる具体的な気晴らしをしていただくなど、一緒に付き合う姿勢で支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を行い記録も整備されていた。年度内に地域の消防団の協力を得て、夜間を想定しての訓練の実施が計画されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を個人の記録表に記入して、関係者にわかるように把握している。栄養のバランスについては、外部の栄養士に相談指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニット入り口から一戸の家の雰囲気に造られ、季節の花や飾り、コタツでくつろげるスペースもあり、居心地のよい空間造りとなっている。壁面には楽しい出来事の写真豊かな写真が貼られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族が好む家具が置かれたり、孫の写真を飾ったり、本人が楽しむ道具が使い勝手よく置かれて、居心地のよい落ち着ける居室となっている。		